

実践・活動報告

名古屋市立大学大学院看護学研究科の国際交流プログラム ー パーツ大学公衆衛生学部（東ティモール）との短期研修プログラム ー

The international exchange program of Nagoya City University Graduate School of Nursing.
- The short-term study abroad program with Paz University (Timor-Leste) -

中 神 克 之¹⁾ 金 子 典 代¹⁾ 脇 本 寛 子¹⁾
山 口 知 香 枝¹⁾ 樋 口 倫 代¹⁾

キーワード：国際交流プログラム、短期研修プログラム、東ティモール

Key words : international exchange program, short-term study abroad program, Timor-Leste

抄 録

東ティモールのパーツ大学と名古屋市立大学大学院看護学研究科の学術交流の促進と、保健医療分野の国際的な人材育成に必要とされるリソースと方法についての現状やニーズを探るため、教員1名と看護学部生2名と東ティモールへ渡航し、短期研修プログラムを実施したため報告する。この短期研修プログラムでは、首都ディリのギド・ヴァラダレス国立病院とバイロピテククリニック、フォルモザ保健センターを見学した。またパーツ大学公衆衛生学部と交流セッションを開催し両国の保健医療や教育方法・システム等について意見交換を行った。さらに同学部の山間農村部で実施されているフィールド・ワークを見学した。今後は、短期研修プログラムを通じて、両国・両大学それぞれの現状やニーズを意見交換するために、公衆衛生活動や医療の実践について意見交換するのみでなく、医療と保健に精通した人材の育成方法を模索していくことが重要と考えられた。

I. 序 論

パーツ大学は、東ティモール民主共和国（以下、東ティモールとする）の独立後まもない2004年に創設された東ティモール最大の私立大学である。法学・公衆衛生学・人文社会学・工学部・経済学・農学の6学部を有し、同国の国づくりにおいて省庁から現場のレベルまで多様な人材を輩出してきている。また、同国の保健省との関係が深く、教育・実践の連携が十分であった点や、名古屋市立大学（以下、本学とする）と学部構成が似ている点などから学術交流校の候補となった。本学看護学研究科（以下、本研究科とする）の国際交流委員会では、平成

28年度に3人の教員が東ティモールを訪問し、研究教育機関と保健医療施設の視察・聞き取りを行った（樋口、寫田、& 金子他, 2017）。平成29年度には、本研究科と人文社会学部の教員各1名が再渡航し、同年度末には大学間交流協定が締結された。なおこの渡航には、本研究科の国際保健看護サークルAGHのメンバー2名が自主同行し、パーツ大学でのフィールド実習などに参加した（井上、吉江、& 樋口他, 2018）。平成30年10月には、科学技術振興機構の「日本・アジア青少年サイエンス交流事業」の「科学技術体験コース」（さくらサイエンスプラン）と特別研究奨励費の基金を得て、パーツ大学の学生4名と教員2名を招聘し、研究教育機関と保健医療

受理日：2020年1月22日 採択日：2020年1月22日

¹⁾名古屋市立大学大学院看護学研究科

施設、日本の科学技術を見学・体験した。これまでの交流を通じて、独立後まだ間もない東ティモールにおける社会と国民の健康、生活などの関係性・関連性の課題を考え改善していくきっかけとなってきた（山口、金子、& 脇本他，2019）。そして両校は、両国の国民生活と健康に資す学術的関心や活動のあり方を議論していく過程で、今後の保健医療分野の国際的な人材の育成・確保の重要性や方法などについて多くの示唆を共有してきた。この時点で今後もパーツ大学との交流実績を積み重ね国際協力を推進し、両校の互惠関係の醸成を図る必要があった。それと共に、同国への視察や同校との交流を通じて両校の保健医療分野の人材の育成方法・課題について、学際的な視点から検討していく必要があった。

そこで、平成 28・29・30 年度の活動をもとにパーツ大学との学術交流を促進させ、両大学それぞれの保健医療分野の国際的な人材育成に必要とされるリソースと方法についての現状やニーズを探り、今後の研究課題や教育・研究協力方法などの意見交換を行うために教員 1 名と看護学部生 2 名と東ティモールへ渡航し、短期研修プログラムを実施したため報告する。

II. 短期研修プログラム内容

1. ギド・ヴァラダレス国立病院の見学

ギド・ヴァラダレス国立病院は、首都ディリにあり、東ティモール最大の病院である。同病院で活動する青年海外協力隊隊員の薬剤師に説明を受けた。東ティモールでは、海外から薬剤提供の支援

を受けている。それら薬剤は、国の保健省が受け取りギド・ヴァラダレス病院で一旦管理され、国内の病院へと分配されるシステムがある。そのため、同病院の薬剤倉庫の中にはダンボールに入れられた薬剤の在庫が高く積まれていた（写真 1）。同病院ではあまりにも多くの薬剤が薬剤倉庫に運ばれてくるため、十分に管理できていない状態であった。また、東ティモールには手術を行える規模の病院が少ないため、同病院は外来・入院患者の診療を担っているのみでなく地方の病院では行うことのできない手術患者を受け入れ対応していた。さらに、東ティモールでは患者のケアは家族が行うという習慣であるため、患者と家族を含めた多くの人で混み合っている病室が多かった。印象的であった点は、多くの職員が日本より寄付された医療機器を紹介し、継続した機材の支援を求める要望が多くあった点であった。ただし、高度な医療機器を取り扱える看護師が少ないという現状もあった。そのため、今後は医療機器の役割や取り扱い方法などを看護師へ教育していくことが重要であると感じた。

2. パーツ大学の交流セッション

パーツ大学との交流セッションでは、本研究科の教員と学生が、本学・本研究科の概要と日本の看護学教育の仕組み、医療・保健システムなどを説明した（写真 2）。パーツ大学の教員からは、東ティモールにおける母子衛生や衛生環境の現状とその課題について説明があった。また、東ティ



写真 1. ギド・ヴァラダレス国立病院薬剤庫の様子

モールでは感染症の対策以外に、近年は生活習慣病罹患への予防対策が重要になってきていると説明があった。さらに、パーツ大学の学生からは、フィールド・ワークの具体的な活動内容が説明された。交流セッションでは、東ティモールでは保健師という職種がないため、看護師教育を受けた保健師の行う公衆衛生活動への関心が高く、具体的な活動内容について多くの質問があった。

3. バイロピテクリニック見学

バイロピテクリニックは、首都ディリにありアメリカ人医師により設立された病院である。同病院で活動する青年海外協力隊隊員の看護師から説明を受けた。バイロピテクリニックには、結核患者の病室があり、入院治療やDOTS (Directly Observed Treatment Short Course) に基づく治療が行われていた。東ティモールのDOTSは、入院中は経口薬を内服し、退院後は、一部を注射薬に置き換えて2日に1回病院へ通院してもらい治療していた。これは、患者自身に内服を管理してもらうとアドヒアランスが悪いため、あえて注射のために来院してもらうことで確実に治療するためであった。しかし、遠方のため通院困難となる者や治療を途中中断してしまう者が多く、感染拡大予防を十分にできていない現状があった。また、日本では結核病棟は隔離閉鎖式であるが、東ティモールでは病室は隔離されているがドアは開放されており、さらに看護師の空気感染予防策として必要なN95マスクの着用が不十分であった

(写真3)。これらから、結核患者やその家族を教育できる看護師や標準予防策を遵守できる看護師への予防教育が重要であると考えられた。

4. パーツ大学公衆衛生学部のフィールド・ワーク見学

パーツ大学公衆衛生学部のフィールド・ワークは首都ディリから車で1時間ほどの山間部の農村、ライラコ地域で行われていた。パーツ大学公衆衛生学部の学生は、その地域に現地の住宅やテントなどで泊まり込み、約1ヶ月程度のフィールド・ワークを行っていた。我々が見学した日は、パーツ大学公衆衛生学部の学生が地域の住民に保健指導を行っていた。保健指導の内容は、手洗い方法やマラリア・デング熱などの蚊の媒介による感染症予防などの他に、ゴミ箱の設置や子どもへの言語教育なども行われていた(写真4・5)。東ティモールの都市部の衛生的な上水道の割合は91%、下水道は73%であるが、農村部では上水道は60%、下水道は30%まで低下する(unicef, 2017b)。上下水道やゴミ箱の設置など、住民への公衆衛生教育を通じて、保健衛生状態の向上に向けた重要性なアプローチを見学することができた。東ティモールの公用語はテトゥン語であり、成人の識字率は58%である(unicef, 2017a)。東ティモールでは、健康教育に関するパンフレットやポスターなどはWHO等から提供されることも多いが、インドネシア語など外国語で書かれていたり、テトゥン語で書かれていても、ポルトガル語(もうひとつの公用語)の単語が混じっていたり



写真2. パーツ大学交流セッションの様子



写真3. バイロピテクリニック結核病棟の様子(奥の建物)

することもある。テトゥン語のみで書かれていても、読むことに慣れていない人も多い。そのため、多くの国民が十分に理解できないという問題点があった。パーツ大学公衆衛生学部の学生による健康教育では、それらの資料はテトゥン語に書き直され、理解できるように促されていた。印象的であった点は、東ティモールの農村部ではゴミ収集サービスがないため、ゴミは分別することなく家の周りでポイ捨てされる風習であったが、フィールド・ワークにより一箇所ゴミを捨てる場所を決め、そこに破棄し、焼却後埋めるように住民意識が変化した実績を見学できたことであった。このように東ティモールでは、医療と保健の両方に精通した人材が求められると感じた。

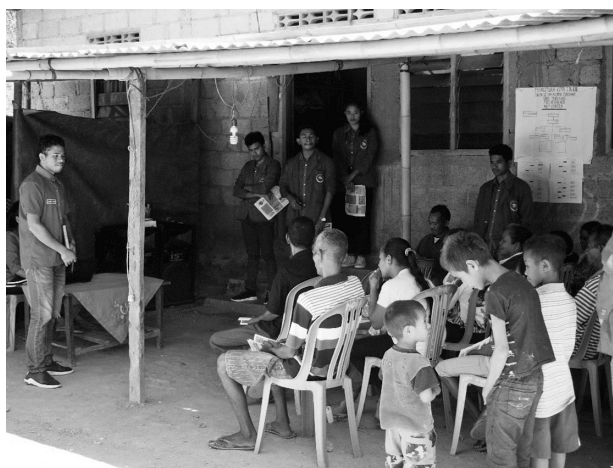


写真 4. パーツ大学公衆衛生学部のフィールド・ワークの様子

5. フォルモザ保健センターの見学

フォルモザ保健センターは、首都ディリの中心部にある。日本では保健センターというと、母子保健や小児保健などの予防活動をイメージする。しかし、東ティモールの保健センターは一次医療の機能を兼ねており、外来患者や救急患者の診察から分娩、家族計画や結核予防などの保健指導まで、幅広く医療・保健活動を行っていた。保健センター内の多くの場所に、栄養や母子保健、感染症予防に関するポスターが掲示されており、住民への保健教育や啓発活動が行われていた（写真 6）。東ティモールの合計特殊出生率は、5.5 人 (unicef, 2017c) とアジアの中でも高い。また、妊産婦死亡率は 570 人 /10 万人 (unicef, 2017d), 低出生体重児出生率は 12%, 新生児死亡率は 22 人 /1000 人、乳児死亡率は 42 人 /1000 人、5 歳未満



写真 5. パーツ大学公衆衛生学部の学生と本学学生

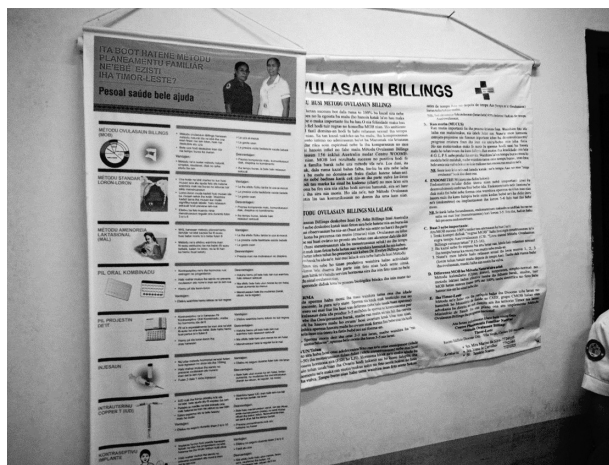


写真 6. フォルモザ保健センターの掲示物の様子

の死亡率は 50 人 /1000 人 (unicef, 2017a) と高い。保健センターで母子共に保健サービスを提供することは、東ティモールにおいて重要であるが、それに関わる医療人材が少ない現状があった。母子保健活動を行うための人材育成の重要性を認識することができた。

Ⅲ. 結 論

この度の短期研修プログラムにより、東ティモールにおける医療保健システムや人材育成・リソースの現状やそのニーズを知り考察することができた。また、派遣された本学学生にとっても、日本とは異なる生活環境や保健医療事情の中で、健康と社会の関係について大きな学びの機会となった。しかし、今後の研究課題や教育・研究協力方法などの意見交換を十分に行うにはいたらなかった。そのため、今後は両大学それぞれの教員による研究課題や教育・研究協力方法などの意見交換を通じ、両大学の関係性を醸成する必要がある。さらに、学生の短期研修プログラムを通じて、両国の医療保健システムの利点や課題をディスカッションし、他の教職員や学生に国際的な人材育成に必要とされるリソースや方法について、他の研究科も含めて意見を求めていくことも重要である。そして、両大学それぞれの現状やニーズを意見交換するために、短期研修プログラムの継続が必要と思われる。特に両大学の公衆衛生活動や医療の実際について意見交換するのみでなく、両国の医療と保健に精通した人材の育成方法を模索していくことが重要である。

Ⅳ. 利益相反

論文内容に関し開示すべき利益相反の事項はない。

Ⅴ. 謝 辞

本短期研修プログラムは、名古屋市立大学平成 31 年度特別研究奨励費の支援を受けて実施した。

我々が到着した前日にパーツ大学学長がご逝去された。ご冥福を心よりお祈りするとともに、パーツ大学教職員・学生の皆様が深い悲しみにくれる中、本プログラムを遂行するにあたり、公衆衛生学部学部長の Martinus Nahak Linu 先生や Cirpiano Pacheco 先生、学生の皆様には大変お世話になり、

深く御礼申し上げます。

【文 献】

樋口倫代, 寫田理佳, 金子典代, 他. (2017). 平成 28 年度国際交流委員会活動報告 3 東ティモール訪問. 名古屋市立大学看護学部紀要, 16, 59-62.
井上蘭, 吉江裕子, 樋口倫代, 他. (2018). Activity of global health (AGH) の東ティモールスタディツアー報告. 名古屋市立大学看護学部紀要, 17, 71-75.

unicef. (2017a). 表 1: 基本統計. 世界子供白書 2017. <https://www.unicef.or.jp/sowc/pdf/01.pdf>. (2019. 12. 23 閲覧)

unicef. (2017b). 表 3: 保健指標. 世界子供白書 2017. <https://www.unicef.or.jp/sowc/pdf/03.pdf>. (2019. 12. 23 閲覧)

unicef. (2017c). 表 6: 人口統計指標. 世界子供白書 2017. <https://www.unicef.or.jp/sowc/pdf/06.pdf>. (2019. 12. 23 閲覧)

unicef. (2017d). 表 8: 女性指標. 世界子供白書 2017. <https://www.unicef.or.jp/sowc/2016/pdf/08.pdf>. (2019. 12. 23 閲覧)

山口知香枝, 金子典代, 脇本寛子, 他. (2019). さくらサイエンスプランによる国立モンゴル医科大学看護学部とパーツ大学公衆衛生学部 (東ティモール) の学生の招へい 「根拠に基づいた健康的なコミュニティづくり」. [実践・活動報告]. なごや看護学会誌, 1(1), 46-51.